

# 紀 要 委 員 会

委員長 薄井 明  
委員 神田 直樹 早出 春美  
佐藤 園美 志水 朱  
櫻井 潤

## 編 集 後 記

例年通り今年も、年末のこの時期に『看護福祉学部紀要』を発行することができました。投稿して下さった先生方には、改めて感謝申し上げます。また、紀要委員の皆さまには、学科会議等での意見集約、編集作業でご尽力いただき、ありがとうございました。

紀要委員長も二年目になり、少し余裕をもって『看護福祉学部紀要』の編集に関われるようになりました。ということで、今年度から、気になっていた点を一つずつ改善しようと思いました。手始めとして、昨年からの懸案に着手しました。創刊号以来続けてきた「研究業績リスト」の掲載をやめたことです。理由はいくつかありますが、一番大きな理由は、創刊当初の1990年代前半と現在とでは、情報発信の環境が大きく変化したことです。紙媒体の「研究業績リスト」が当時もっていた情報発信の機能は、ほかの種々のネット上の“場”に取って代わられたということです。「研究業績リスト」を廃止した結果、『看護福祉学部紀要』は「研究発表の場」という紀要本来の性格に純化し、紀要委員も研究論文等の「編集」作業に専心することができるようになりました。確かに、リストを削除した分、冊子は薄くなりますが、心配ご無用。『看護福祉学部紀要』の各「論文」等は「機関リポジトリ」に掲載されますので、インターネット上のキーワード検索を通して直接アクセスされ、読まれます。今後、紙媒体の冊子体を手にして頁をめくるといった機会はどんどん減っていくでしょう。紀要の冊子体の“厚さ”は何の意味も持たず、各「研究論文」の内容の“濃さ”が直接かつ瞬時に読者に伝わる時代なのです。言い換えれば、本『看護福祉学部紀要』への「論文」等の投稿そのものが、研究者個人および看護福祉学部全体の研究状況に関する重要な情報発信機能を担うことになるわけです。そうした意味も含めまして、今後先生方のご投稿がますます活発になることを期待いたしております。

(薄井 明)